

旅の温泉

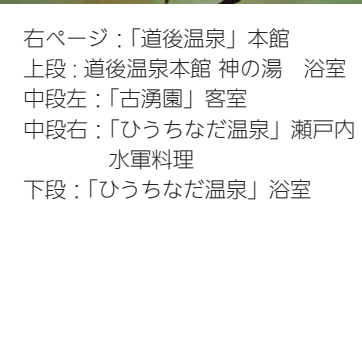
第九回 四国霊場をお遍路さんとめぐる



No.009
愛媛県今治市「ひうちなだ温泉」
愛媛県松山市「道後温泉」

ひうちなだ温泉・道後温泉

瀬戸内海に面した四国・伊予路。八十八カ所札所霊場のうち、延命寺、石手寺など五十番代の名刹をめぐって、「ひうちなだ温泉」(今治市)、「道後温泉」(松山市)を結ぶ2泊3日の旅。四国霊場は、「歩く健康」の道として人気だ。



右ページ:「道後温泉」本館
上段:道後温泉本館 神の湯 浴室
中段左:「古湧園」客室
中段右:「ひうちなだ温泉」瀬戸内水軍料理
下段:「ひうちなだ温泉」浴室

今治市内に点在する延命寺(54番)、南光坊(55番)、泰山寺(56番)、栄福寺(57番)、仙遊寺(58番)、国分寺(59番)などの霊場のうち、二つ三つをまわる。約3時間の徒歩だ。同行二人と記された笠をかぶった白衣の巡礼者と道連れとなったら、越し方の人生模様を語り合いながらの心洗われる時間が過ごせる。手早くまわるにはタクシー利用がよいだろう。

札所霊場をめぐったあと、白砂青松の桜井海岸と瀬戸内海の多島美を一望にする、海拔60メートルの高台に建つ「休暇村瀬戸内東予」に一日目の宿をとった。

温泉の少ない四国にあって、ここには「ひうちなだ温泉」が入っている。今治の山あい湧く木谷温泉を源泉にするアルカリ性単純温泉だ。関節リウマチ、疲労回復に大きな効果を挙げる。

部屋に落ち着いたあと、早速2階の展望大浴場へ入りに行く。左右にある大きなガラス窓の先には今治市方面の夜景が広がっている。瀬戸内海は暗い海面を広げている中に、船の明かりがゆっくり流れて行く。のんびり温まり、体の疲れをほぐした後の夕食は、2階の食堂でいただく。

地元の食材を豊富に使った郷土料理は、豪快な舟盛りから始まる。鯛の姿造りをはじめ、アワビ、サザエ、クルマエビなど。焼き物は、イセエビ、ヒオウギ貝などの法楽焼。媛ポークのせいろ蒸し、地ダコの唐揚げ、そして今治名物の鯛釜飯と大満足だ。

翌朝は特急に乗り35分で松山へ。道後温泉へは市内電車で20分。途中でSLスタイルの機関車が小さい客車をひく「坊っちゃん列車」がやってきたので乗り換えた。

道後温泉は大国主命と少彦名命の神話を伝える日本でも最古の温泉。夏目漱石の名作「坊っちゃん」に描かれた「道後温泉本館」が温泉街の中心。入浴は6時から22時。神の湯男子東浴室には湯釜を中央に置き、背後の壁には、白鷺伝説や玉の石の神話が砥部焼陶板画に描かれている。明治32年創設の皇室専用浴室「又新殿」「玉座の間」などは見学のみ。格天井から吊り下げられた刻太鼓は、朝6時、正午、夕方6時にドーン、ドーンと打ち鳴らされ、日本の音風景100選にも選定されている。

約20軒ある旅館・ホテルは、大和屋別荘の高級和風旅館から500人も収容できる団体向きのホテル椿本館まで各種あるが、道後温泉本館の背後に建つ「古湧園」を今回の宿に選んだ。20数年前に一度訪れて、好印象を残していたからだ。

上階の部屋からは、松山市街の夜景が望まれる。広々としたタイル張りの大浴場、岩風呂の露天風呂を楽しんだあと、瀬戸内海の幸をふんだんに盛ったタイ、エビ、アワビなどに伊予牛が付く「伊予路会席」の味覚は、至福の時であった。

翌日は奥道後温泉への途中にある石手寺(51番)で納経。四国霊場と温泉を結ぶ旅を終えた。

お宿情報.....

●ひうちなだ温泉・休暇村瀬戸内東予
TEL 089-848-0311
愛媛県西条市河原津 乙 7-179
1泊2食1万3000円(税別)から
*交通 JR 壬生川駅より 15:40・16:40に休暇村への送迎バスあり。(要予約)

●道後温泉・古湧園
TEL 089-945-5911
愛媛県松山市道後鶴谷町 1-1
1泊2食1万1700円(税別)から
*交通 JR 予讃線松山駅→私鉄伊予鉄道 JR 松山駅から道後温泉行き約25分
道後温泉駅下車→徒歩約10分



道後温泉の中には道後温泉本館。共同浴場になっている。明治時代から続くといわれ、天皇の間なども残る。名作「坊っちゃん」のマドンナが乗ったという人力車が、若い人に人気だ。



夏目漱石の名作「坊っちゃん」の世界に描かれる「坊っちゃん列車」を忠実に復元した列車が松山市内を走る。木造のレトロな客車にミニ蒸気機関車(実はディーゼル)。



四国八十八カ所の霊場の 56 番泰山寺までは、家族に先立たれた悲しみを胸に抱いて霊場を巡るお遍路さんと道連れになった。四国霊場巡りは心の癒しの場でもある。



四国八十八カ所の霊場は、四国四県にまたがり、今日も杖を手にした白衣の巡拝者が多い。四国の旅の大きなポイント。54 番延命寺からスタートして今治、松山を巡った。



旅行作家
温泉評論家
野口冬人
のぐち ふゆと

温泉関連の著作多数。旅行読売、日本経済新聞などでも連載を抱える。株式会社旅行研究所代表、旅行作家の会代表。全国の露天風呂を評価した露天風呂番付の作成者としても有名。